

# 医療安全情報 レポート

Vol. 6

## 《経管栄養について第2回》

今回は、経管栄養カテーテル管理に関する警鐘事例を紹介します。  
これまでの報告では、重篤症状を呈し、状態の改善がなく死亡する症例もあります。  
事故報告書では、院内での管理方法が統一されていないことなども課題として述べられていました。  
皆さんの施設では大丈夫でしょうか？

警鐘事例！

- ① 経管栄養カテーテルの汚染・閉塞予防に使用していた食用酢の代わりに薬局方の酢酸を注入し、**消化管穿孔を起し死亡事故**の報告があります。
- ② 栄養注入時の嘔吐による**誤嚥性肺炎を起し死亡事故**の報告があります。
- ③ 胃瘻チューブが腹腔内に逸脱した状態で栄養剤を注入し、**腹膜炎を起し死亡事故**の報告があります。
- ④ 血管輸液ルートへ**誤接続し、栄養剤を注入し死亡事故**の報告があります。



各栄養法により、手順や観察ポイントが異なります。  
今回は共通する観察ポイントについて記載します。  
栄養法の実施前・実施中・実施後には十分な観察を行い、患者さんの状態に合わせて実施しましょう。  
また、使用器具も清潔な取り扱いを心がけ感染防止に努めましょう。

### 経管栄養法実施時の観察ポイント

- ◎カテーテル挿入時の位置確認…… 1) X線や内視鏡による確認、胃内容物の吸引や送気音による確認など様々な方法があります。患者さんの状況や療養環境に応じた方法で位置確認を行って下さい。
- ◎カテーテル挿入に関する内容…… 1) 違和感や痛み 2) カテーテルの固定状況 3) 実施時の滴下状況 4) 腹部症状 5) 皮膚の状態
- ◎感染徴候…… 1) 挿入部の状態 2) 口腔内の状態及び上気道症状 3) 消化器症状 4) 全身状態
- ◎水分・電解質・糖の代謝異常…… 1) 脱水徴候 2) 体液量過剰徴候
- ◎栄養状態の評価…… 1) 体重の変化及び皮下脂肪の状態 2) 皮膚や毛髪の状態
- ◎栄養中・終了時の確認…… 1) 滴下状況の確認と液漏れやライン閉塞の有無 2) 消化器・腹部症状を含む一般状態の把握



等を観察し、施設の報告基準に従い速やかな報告と対応が大切です。

事例報告は、PEG ドクターズネットワークと公益財団法人日本医療機能評価機構の報告書から引用しました。

《次号では経鼻栄養法についての掲載を予定しています。》